揖斐農林事務所の普及活動状況

令和３年５月 25 日現在

今月の重点活動

■茶　コンテナ式乗用型摘採機とトラックコンテナによるスマート農業技術の実証

５月３日に美濃いび茶宮地生産組合によるスマート農業技術の実証が行われた。

コンテナ式乗用型摘採機は、従来の袋取り方式の乗用摘採機と比べ、茶袋の取り換え作業がなくなり、摘採時間の大幅な短縮が可能となる。

トラックコンテナは乗用摘採機から直接生葉の移し替えが可能で、補助者・運搬者の軽労化が可能となる。

実証では補助者の心拍数を調査し、移し替え作業の軽労化により、心拍数が下がる傾向を確認できた。

近年茶生産農家が悩まされている摘採時の労働力不足の解消に向けて、今後も検証を行っていく。

【コンテナ式乗用摘採機の移し替え】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手育成　■柿・夏秋なす　帰農塾　開講！

JA いび川は、５月８日（土）に「第１回柿帰農塾」を、５月 15 日（土）に「夏秋なす帰農塾」を開講した。

帰農塾は、新規栽培者や定年帰農者、後継者の確保と生産技術向上を図るため開催している。「柿帰農塾」は、８名、「なす帰農塾」は 11 名の参加申し込みがあり、それぞれ視察研修を含め年５回の開催を計画している。

第１回目は、農業普及課から柿及びなすの生理生態や栽培管理等の講義を行った。柿では、かき振興会技術部員を講師に摘蕾方法についてと品種更新や園地の若返りに必要な技術として「接ぎ木」について実習に取り入れた。なすでは、なす部会長を講師に定植作業を実習し、各自１～２株の定植を行った。

【帰農塾の様子】

受講者には、定年帰農をする前に基礎を学びたいという若手や女性も多く参加されており、熱心に質問していた。

農業普及課では、今後も帰農塾へ協力し、定年帰農者や新規栽培者、後継者の確保への支援を行っていく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■大麦　収穫がスタート

揖斐管内では小麦が約 600ha、大麦が約 100ha 栽培されており、５月中旬に大麦の収穫期を迎え、麦秋の景色が広がっている。

今年は記録的に早い梅雨入りのため、雨の合間をぬって急ピッチに収穫が進められている。農業普及課では、今後も適期収穫に向けて、関係機関と協力しながら、支援を行っていく。

【大麦収穫の様子】

■花き　「揖斐フラワーフライデー開催」

県では、県産花きの PR・利用拡大を図り、家族や大切な方と過ごす週末の楽しい時間に、岐阜の花を添えていただくために、月に一度県産花きを持ち帰って頂く、‘花と帰ろう！「フラワーフライデー」’に取り組んでいる。

昨年の新型コロナウイルス感染拡大を受け、需要が低下している地元産花きの消費拡大を図るため、揖斐総合庁舎においても「フラワーフライデー」を実施することとなった。

４月 22 日・５月６日の第一回で開催したのは、池田町で栽培されたフランネルフラワー。母の日向けに約１年掛けて最大８号サイズまで育て上げた逸品を含め、５号、４号のフランネルフラワーを数十鉢斡旋した。

【フランネルフラワー】

地域資源を生かした農村づくり

■わさび　試験導入苗の植え付け

揖斐川町小津地域で栽培されているわさびは、根茎の肥大不良の改善のため、昨年度から農業経営者総合サポート事業を利用し、郡上市のわさび生産者に指導を受けている。

今回、郡上市から現在栽培している苗と比較し、分株が少ない品種を導入した。５月上旬に 2,000 本の植え付けを行った。

今後は、従来の苗と比較しながら生育調査を実施し、特産品づくりに向けて関係機関と情報共有しながら、支援を行っていく。

【導入された苗】

■金ごま　第１回研修会の開催

５月 20 日に揖斐営農経済センターで「金ごま」の生産に向けた研修会が行われた。今年度から新たに栽培を始める３組の生産者も含めて、顔合わせも行った。作付けに向けて、生産者同士で活発な意見交換が行われた。

農業普及課からは、栽培暦を用いて作業のポイント等を説明した。６月中旬から播種を予定しているため、今後も関係機関と連携をしながら支援を行っていく。

【研修会の様子】